

札幌市円山動物園基本構想（案）

【円山動物園が抱える課題】  
 (1)行政監査 (2) 動物園の役割の変化 (3)意識改革  
 (4)遊園地(キッドランド) (5)食堂・売店

「環境文化都市さっぽろ」(第4次長期総合計画)  
 「世界に誇れる環境都市」(札幌市環境基本条例)

【これからの動物園の役割】  
 レクリエーション  
 環境教育  
 種の保存  
 調査研究  
 【キーワード】  
 生物多様性

基本理念  
 人と動物と環境をつなぐ絆をつくる動物園

円山動物園の役割  
 “札幌市の環境教育の拠点” 循環型都市  
 “北海道の生物多様性確保の基地” 共生型都市  
 “多面的なメッセージを伝えるメディア”

3つの柱

持続可能な経営の方向性(マネジメント)  
 (1) 単年度黒字経営を目指して  
 (2) 実現のための経営体制の確立

「わたしの動物園」  
 という視点での行動

生物多様性の確保  
 に向けた行動

円山エリア  
 としての行動

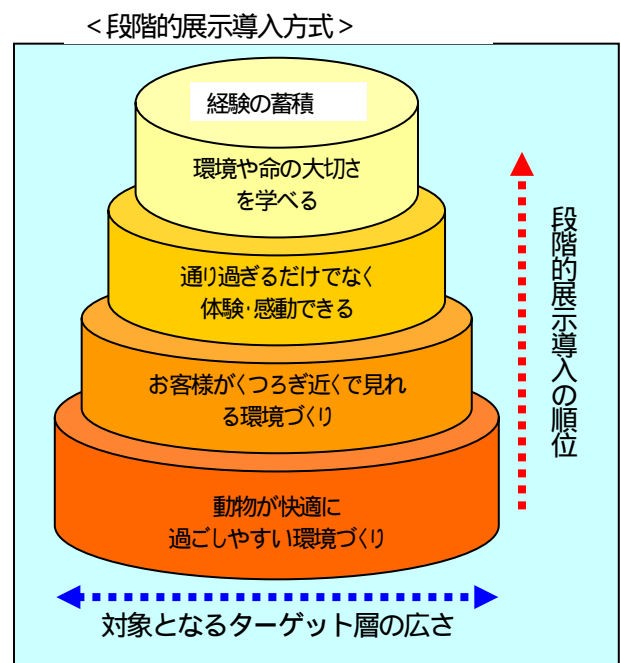
事業展開の方向性(ソフト)  
 (1) お客様をひきつける好循環サイクル  
 (2) お客様にメッセージを伝える好循環サイクル  
 (3) ブランドの構築による効果的な事業展開

展示・施設の方向性(ハード)  
 (1) 円山エリアにおける一体的な空間創出  
 (2) 動物園内における展示のあり方  
 (3) 来園者の利便性の向上

【事業展開の方向性(ソフト)】  
 <集中取組期間>  
 (1) 新たな魅力発見(時間帯、季節、企業・NPO等の提案型イベント)  
 (2) 新たな集客ターゲット(シニア層、LOHAS層、カップル層、大人の癒しの場、観光客)  
 (3) 新たなプロモーション(みんなのドキドキ体験、ブログ、携帯サイト、DVD)  
 (4) 新たな関係性の構築(市民が支える動物園、様々なボランティアの活動)  
 (5) 新たなブランドの構築(本物の動物園、調査研究の充実、大学等との連携、野生動物復元プロジェクト)

【展示・施設の方向性(ハード)】  
 <集中取組期間>  
 (1) ビオトープの設置  
 (2) 北海道ゾーンの着手  
 (3) 北海道の野性動物復元プロジェクト開始  
 (1) ゾーニング  
 (2) 人間のための環境エンリッチメント  
 (3) 園の顔となるエントランスの検証  
 (4) 水や熱の循環設備の導入  
 (5) 園路・売店等スペースの検討、遊園地の縮小  
 (6) 不快感を解消する利便施設の整備・改善  
 (7) 地下鉄円山公園駅からのアクセス、サイン整備等

【持続可能な経営の方向性】  
 <具体的な取組>  
 (1) 単年度黒字経営を目指して  
 <数値目標：2010年度末>  
 入園者：100万人を目指す  
 収入：2005年度の倍増を目指す  
 <具体策>年間パス料金の見直し、広告資産の活用、動物サポーターの導入、寄付ルールの導入  
 ランニングコスト：2005年度の30%削減を目指す  
 <具体策>冬期間週休日の設定、委託業務の見直し、飼料在庫管理の徹底、エネルギーシステムの構築  
 (2) 構想実現のための経営体制の確立  
 <具体策>トップマネジメントの強化、柔軟な組織文化の醸成、飼育技術の伝承と展示企画の質向上、外部委員会の設置  
 (3) その他  
 <具体策>指定管理者等の検討



実施  
 プロジェクト

【基本構想の取組期間】  
 構想策定後にこれに基づく実施計画の策定と予算編成等の市の事務手続きを考慮に入れ、平成19年度は先行取組期間、平成20年度から動物園開園60周年にあたる平成23年度までを集中取組期間とし、その後、社会環境の変化に応じた変更を加えつつ継続して将来に向けて取り組んでいくこととする。

